

農地・農業の被害と復旧

地震直後、雪に覆われていた農地の被害はわからず、雪解けとともに徐々に被害の状況が見えてきました。豪雪地域での農地の復旧は長期化し、2年続きで作付け出来なかった農地もありました。



雪解けとともに、被害が明らかになった農地（小滝）

農地

震災当日は、雪面に大きなヒビ割れや崩落があったが、その下の農地の被害などとても想像できませんでした。4月に入り、雪消えが始まるとあちこちから農地の被害が報告されました。

早期の被害確認のため農道の除雪を急ぎ、4月20日から5月13日まで県の協力を得ながら4班20名体制で約580箇所を一斉調査しました。7月19日には第1回目の災害査定が行われ、その後8月25日まで延べ13日間にわたり農地641箇所、農業用施設171箇所の査定を受け、8月31日による最初の工事発注を行いました。

水田では、内畦を突き、できる限り作付けできるようにしましたが、47ヘクタールの水田で作付けができない状況となりました。また、

本格的な復旧が刈り取り後ということで、約4割の19ヘクタールが平成24年に繰り越され、さらに平成24年の豪雪により残雪量が多く、急遽、除雪経費を復旧額に認めてもらい、平成24年の作付けに間に合うように工事を進めました。

しかしながら、豪雪による新たな災害も発生したことから、融雪災害等として合計3回の査定を受け、農地9箇所、農業用施設23箇所の復旧が認められ、9月までに全ての発注が完了しましたが、約半数は平成25年に施工することとなりました。また、国の補助対象とならない被害箇所は、農地282箇所、農業用施設177箇所にも及んでいます。

村では、地震による災害が激甚災害に指定され、高率補助となったことから、農地に係る受益者負担については1%、農業用施設については無償としましたが、高齢

化の進行と農家の米作りに対する思いなど精神的な打撃が大きく、この問題解消が緊急の課題となっています。

農業

畜産では、建物ばかりではなく、家畜のへい死等の甚大な被害を受けました。

倒壊した建物から家畜をいかに救助するか、それは人命救助と一緒でした。いつまた大きな余震が来るかわからない中、危険と時間との闘いとなり、JAを中心に3月14日から搬出作業が始まり、17日までに養豚246頭、肉牛198頭は安全な場所へ移動できましたが、26頭の肉牛がへい死となっていました。空き建物を探しながら飯山市や中野市で飼育することとなった農家や村で唯一の養豚と酪農家は廃業せざるを得ないといった最悪の事態となりました。

また、菌茸にあつては栽培ビンの倒壊が多く、人海戦術による片付け作業が県、JAの協力により3月16日から22日まで延べ520

名余りによって行われました。これら一連の搬出作業が終わった時、災害時における人命・財産の安全確保は最優先に行われなければなりません。同時に飼育・栽培等の生き物に対する早期対応の必要性も強く感じさせられました。

村の農業生産額のトップを占める菌茸にあつては、農家の高齢化と施設の老朽化により再建を断念せざるを得ない状況となり、22戸あった農家も14戸と激減してしまいました。

これまで村の農業を支えてきた畜産と菌茸の分野が大きく変貌した今、今後の農業のあり方について大きな転換期を迎えています。

更に、農業用機械施設の被害も多く、畜産・菌茸施設はもちろんのこと農業機械や育苗施設、堆肥センター、農産加工施設等多岐にわたり、これらの各施設は復旧することはできませんでしたが、今後の運営等に新たな問題も生じています。



1倒壊した畜舎（野田沢）
2倒壊した畜舎で救出を待つ牛
3大きく損壊した農道（菅沢）

●農地・農業用施設の被害状況

種 別		箇所数	数 量
国庫 災害復旧事業	田・畑	611 箇所	48.59ha
	水 路	61 箇所	2,032 m
	農 道	89 箇所	5,076 m
	ため池	5 箇所	
県単独・村単独 災害復旧事業	田・畑	221 箇所	19.95ha
	水 路	73 箇所	2,777 m
	農 道	48 箇所	1,186 m

●畜産・菌茸農家の被害状況

区 分	生産物		施 設	
	農家数	被害状況	農家数	被害状況
畜 産	3 戸	肉牛 26 頭 生乳 4,200 ℓ	5 戸	全壊 7 棟、 一部損壊 3 棟
菌 茸	19 戸	栽培ビン倒壊 533t	17 戸	全壊 1 棟、 半壊 6 棟、 一部損壊 13 棟

●震災後の水稻等の作付状況

(単位：ha)

区分	平成22年		平成23年			平成24年			
	水稻 (a)	水稻 (b)	その他			水稻 (b)	その他		
			復旧 工事	そば	休耕		復旧 工事	そば	休耕
面積 (b/a)	227	180 (79.3%)	37.7	4.1	5.2	206 (90.7%)	15.6	8	4.4

1 倒壊した畜舎から1頭ずつ牛を救出
2 損壊した水路（小滝）
3 崩れ落ち、散乱したきのこの栽培ビン
4 地割れが深さ80cmにも及んだ農地
5 農地の復旧工事の様子（横倉）
6 倒壊した養豚場（泉平）
7 大きく地割れが生じた農地（森開田）
8 水路の復旧工事の様子（森開田）



学校の被害と復旧

北信と東部の2つの小学校の統合を控え、中学校を含めた3校の卒業式などの準備を進めている中、地震が発生しました。被災した3校は避難所となり、予定されていた行事はすべて延期。また、施設等の被害も甚大で、通常の授業にも支障をきたしました。



天井板等が崩落した体育館（旧東部小学校）

北信小学校（現栄小学校）の被災状況

平成23年3月、雪解けには遠く、校庭には2m近くの積雪があり、北信小学校と東部小学校では、卒業式を間近に控え、3月31日に閉校し、4月には統合して「栄小学校」として開校する準備を進めていました。

その中、3月12日土曜日の午前3時59分に地震が発生し、児童はすべて自宅被災しました。学校には教頭が最初に駆けつけ、被害状況を確認し、校長と相談の上、職員には自宅で待機してもらうようにしました。北信小学校の職員は村内に10名（自宅5名、教員住宅5名）、新潟県津南町に2名、飯山市に4名でした。村内にいた職員は役場の避難指示に従い、避難所や帰宅先にそれぞれ避難をしました。



棚が倒れ、書類などが散乱した職員室（栄小学校）



ピアノが倒れ、床などが損壊した音楽室（栄中学校）

第4章 被害状況と復旧の取組み

校舎	1階北側壁面ひび割れ86箇所 その他軽微なもの数箇所
	昇降口周辺とスロープ2箇所に亀裂（余震で亀裂・沈下が拡大）
図書館	水道管、灯油管、下水管・浄化槽の損傷
体育館	吊り下げ式の蛍光灯がすべて落下
プール	照明器具の損傷、天井板及び天井と屋根の接合金具の破損
校庭	水槽の歪みや周辺部の崩落 配管等の損傷
校庭	西側半面にひび割れ

当日は、校舎本体の大まかな被害箇所の把握しかできませんでした。検査・点検の必要な水道・ガス・消火設備・灯油管・パソコンサーバーや、雪の下で確認できない校庭やプール、校舎周辺の舗装などは、後になって損傷の程度が判明しました。校舎周辺部や地下のパイプなどは、余震で被害が拡大しました。幸い、給食設備には損傷がほとんどありませんでした。

主な被害箇所は次のとおりです。

避難所として機能

秋山地区を除く村内全域に避難指示が出され、北信小学校を含め村内7箇所に避難所が設置されました。北信小学校では2階のオーブンスペース、一年から三年の各教室及び特別支援教室を避難所に充て、近隣4地区の村民の皆さんが避難されました。また、村内の教員住宅に住んでいた職員も、学校で寝泊まりしました。

その他、消防団の詰所もランチルームに置かれ、県警と県の保健師さんも職員室に常駐しました。日中は日本赤十字社から医師が派遣され、保健室で診療されていました。

学校職員は、避難所設営時に各教室の片付けの手伝い、避難されている方への電話の取り次ぎ、設備等の故障時の対応などを行いました。が、役場職員の皆さんが避難所の運営を中心に担っていましたので、閉校・統合・学校再開に向けての準備を進めることができました。

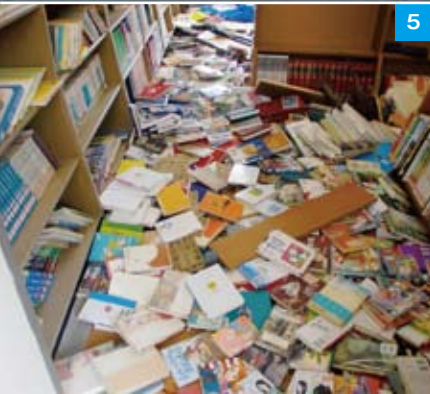
避難指示の解除後も、自宅への仮設水道管の敷設が済まなかった



全体が歪み、配管等が損傷したプール（栄小学校）



敷地のアスファルトにも大きな亀裂が生じた（栄小学校）



1 転倒した児童用の下駄箱（栄小学校）
2 照明器具など損壊した OA 教室（栄中学校）
3 無数の亀裂が生じた校舎の壁（栄小学校）
4 地震発生から 1 か月後にランチルームで行われた栄小学校の開校式
5 散乱した本で埋め尽くされた図書館（栄中学校）

り、片付かなかつたり等の理由により避難所に泊まる方も多く、4月9日までの間、学校は避難所としての機能を果たしました。

児童への対応

子どもたちの安否確認は連絡網を通じて各担任が取り、けが人もなく、全員の無事が確認できました。その後の連絡も引き続き担任が各避難所を回り、村外の親戚などの家に避難した子どもたちに向けては電話で連絡をしました。3月14日から、校舎の安全が確保されないことと、避難所になっているということで「休校」になりました。その後に予定されていた卒業式・開校式は規模を縮小し、卒業生のみに参加で3月24日に行いました。また、栄小学校の開校式・入学式も、水道の仮復旧・給食設備の衛生確認・下水処理設備の応急復旧（仮設トイレの移設・浄化槽の設置など）・避難所の閉鎖予定などを考慮して、4月12日に行うことができましたが、当日の朝も大きな余震があり、開校式が1時間遅れました。

教科書等は、村教育委員会より「汚損・棄損」の調査があり、使用できなかったものについては村の予算で購入し、配布しました。就学援助費（学用品費、給食費など）の支給については、通常の支給要件の他に、地震で被害を受けたことにより、村民税・固定資産税などの減免を受けた世帯に対象範囲が拡大されました。

復旧等の状況

7月に国から災害復旧事業に係る現地調査があり、8月中旬から一部の復旧工事が始まりました。9月の運動会に間に合わせるように校庭の補修を先に進めました。体育館は3月の卒業式に間に合わせるように補修が行われました。プールは、水槽の歪みや周辺部の崩落などの他に、注水などの配管等も損傷していたことから、また冬期は雪のため工事が出来ず、復旧に時間がかかり、平成23年は飯山市の岡山小学校にお願いしプール学習を行いました。ようやく平成24年6月末に完成しました。栄小学校としてのスタート直前

から、震災や避難所対応に追われ、開校準備が十分にできたとは言えない状況でした。その中で多くの方々から子どもたちへ、応援のメッセージや絵手紙、義援金、野菜や果物やランチ・お菓子や文房具等の学習用品の提供、スポーツ観戦・特別列車・花火大会へのご招待など、多くの温かいご支援をい

ただき、励まされました。しかし、行事の時などに取材の方々も多く来校し、学習環境としては落ち着いていたとはいえませんでした。校舎や設備の補修ももちろん大事ですが、子どもたちが「普段通り」に過ごし学べる、落ち着いた学校に早く戻ることが望まれました。



栄小学校に届いた激励のメッセージ

商工観光施設の被害と復旧

震災では、商店などの事業所も大きな被害を受け、休業や閉店を余儀なくされました。また、観光産業においても風評被害により観光客が減少した中、多くの事業所は復興に向けて懸命の努力を続けてきました。

観光施設では、建物の規模が大きいため、外見ではわからない躯体部分の柱や梁、壁、天井裏の屋根、床などが被災したことが特徴でした。中条温泉「トマトの国」では外構改修工事を含めて5千3百万円の被害が生じたほか、北野天満温泉・絵手紙收藏館・物産館・百合居温泉でも被害を受けました。

また、住家等の被害が少なかった秋山郷でも、湯ノ沢温泉の井戸の水位が下がると同時に温度が下がり、新規に温泉掘削が必要となりました。その他、上野原温泉「のよさの里」、切明温泉「雄川閣」でも改修工事を行いました。更にさかえ倶楽部スキー場では、セクターハウス、車庫等の屋外施設、リフト設備等に被害がありました。村内の事業所では、事務所や店舗の損壊、地盤沈下をはじめ、シャッター、ショーケース、商品の

破損など甚大な被害がありました。その結果、建物の全壊等で廃業された事業所は7箇所に及びました。その内、19事業所があるJR飯山線の森宮野原駅前商店街では、4店舗が全壊状態で廃業となりました。駅前商店街の壊滅的な被害を受け、特に当村中心部である森宮野原駅や役場庁舎、高齢者総合福祉センター、診療所等を訪れる方などが利用してきた生鮮食料品店の閉店は、車の運転ができない高齢者等にとっては生活に大きな影響が出ました。このため、村では10月18日に独立行政法人中小企業基盤整備機構（以下「機構」という。）に生鮮食料品の仮設店舗の整備及び運営に係る要請書を提出しました。この間、機構から震災復興支援アドバイザーの派遣をいただき、検討を重ねてきました。建設用地については、村が借り受けて確保し、建築工事は機構が全額負担で実施、その後に村へ一括貸与。更に完成1年後に村に無償移管するという流れとなりました。

仮設店舗は「がんばろう 栄村駅前店」と名付けられ、平成24年1月28日にオープン、同時に軽量鉄骨



多くの事業所が損壊した森宮野原駅前商店街



1



2



3



4

- 1 棚などが倒れ、商品が散乱した店舗
- 2 商店街の活性化のために設置された大型パネル
- 3 森宮野原駅前に整備された仮設店舗「がんばろう 栄村 駅前店」
- 4 リフト監視所等が損壊した「さかえ倶楽部スキー場」

2階建て、延床面積233㎡の仮設店舗の完成引渡式が行われました。また、商工会では駅前商店街の商店主が一丸となって誘客に取り組みが必要があることから、国の地域商業活性化を通じた被災地支援事業の補助金を活用して、仮設店舗のオープンに合わせた2日間の復興感謝セールとシャトルバスの運行、雪ん子祭りに合わせたふれあいイベント、商店街にぎわいを狙った大型パネルの展示などを行いました。商店街の復興については、商工会に「さかえ元気な街づくり委員会」を設置し、現在もその将来設計を引き続き話し合っています。

村の観光事業は、これまで秋山郷が牽引役となつて発展してきましたが、震災の影響で被害の少なかつた秋山郷では、通常営業にもかかわらず観光客が激減し、風評被害の大きさに改めて地震報道が及ぼす影響を垣間見ました。震災後、村の観光協会は、秋山郷とそれ以外の地域の2つの協会がありました。それが1つにして、「栄村秋山郷観光協会」の名の元新しく発足して、村民一丸となった観光振興発展を目指しています。